

令和6年度 学力向上指導改善プラン

あかしあ台小学校長 田中 裕貴

学校教育目標		こころ豊かに たくましく生きる 子どもの育成		4月		2～3月	
推進主体		管理職と主幹教諭・研究推進担当・生徒指導担当・学校評価担当を中心に校内学力量向上委員会を設置		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学 力 の 状 況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	○全体の平均正答率は目標の8割には満たなかったもののすべての領域で全国平均と同程度か、全国平均より高い正答率となっている。 ◆「書くこと」において、25.0%(全国26.7%)と全国平均と比べて、若干下回っている結果となった。	知識・技能に関する力の獲得を図る。	全国学力・学習状況調査の知識・技能に関する問題で、平均正答率8割以上。		・主に書くこと領域に関する学習の評価規準と支援の方法を共有し、知識・技能の獲得を図る。 ・教科種断的に図や表、グラフなどの解釈と自分の考えを持つような場面設定を仕組んでいく。 ・友だちと交流後、考えの比較、発見、変更など、ふりかえりの場を活用していく。 ・理由を述べたり、条件に合わせる力、条件を落とさない力を身につけたりできるような活動を意識的に取り入れていく。 ・モデルとなる文章を効果的に提示し、思考する活動を善手とする児童の支援とする。 ・漢字難れを防ぐため、タブレットの入力だけで終わらず、継続した漢字練習や文章で活用させる。
		算数・数学	○全国学力状況調査・質問紙調査「算数の授業内容はよくわかりますか」の項目で、肯定的な回答が8割以上であった。 ◆「算数の勉強は大切だと思うか」「算数は将来、役に立つと思うか」の項目でいずれも肯定的な回答が90%を超えているにもかかわらず「算数は好きですか」の項目では肯定的な回答が57.8%であった。				
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	◆単元テストやまとめのテストにおいて、全員の正答率が8割以上は達成していない単元がある。6割に到達していない児童が1割程度いる学級が多い。	個の学びを中心にした細やかな支援を行うための授業改善を図る必要がある。	単元テストやまとめのテストにおいて、全員正答率6割以上。		・個別の指導計画等の引き継ぎ事項を根拠にし、より細やかな子に応じた支援を行う。 ・自分の考えをノートに書くことに加え、ICT機器も生かしながら協働的な学びへの授業改善を行う。	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	○個別の指導計画短期目標の設定で、目標の数値化や客観化を意識して具体的に支援を行ったことで、成果が上がっている児童が増えている。					
学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況	全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果	◆「算数の勉強は好きですか」(全国 34.8%、自校33.7%)、「英語の勉強は好きですか」(全国38.6% 自校34.9%の質問において、全国・県平均より低くなっている。その反面、「算数の勉強は大切だと思いますか」(全国75.3%自校71.1%)、「英語の勉強は大切だと思いますか」(全国69.8%自校80.7%)の質問では、全国よりも高くなっている。教科ごとの「得意・不得意」が、「好き・嫌い」につながっていることが多い。	学力と生活習慣の関連について啓発し、家庭とさらに連携し、発達段階に応じた生活習慣と学習習慣の確立を図る。	質問紙「算数の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」の項目において全国平均を上回る。	・「ひとり学びの手引き」やICT機器を活用し、子どもたちが主体的に学習を進める方法を浸透させる。高学年では予習や復習を習慣化させるように指導する。 ・「めあて」「ふりかえり」を大切に授業を行っていく。 ・授業での図書室の活用を行っていくとともに、司書教諭やボランティアの方も連携を促進していく。		
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	○「めあてに向かって進んで学習に取り組もうとしている。」の項目で肯定的な回答は91%と目標数値の9割を超える結果となった。 ○「読書が好きである」では肯定的な意見73%で大幅に向上した。	・「めあてに向かって進んで学習に取り組もうとしている」の項目で、肯定的な回答が9割以上を維持継続。 ・「読書が好きである」で肯定的な意見7割以上を継続維持。				
授 業 改 善	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	◆「不得意・嫌い」とならないように、本校の研究課題である「ICT機器の活用」の研究を深め、デジタル教科書やタブレット(ミライシード)をさらに活用し、より楽しくわかる授業を目指す必要がある。	さまざまICT機器の活用により、個の能力や特性に応じた学びやお互いに教え合い学び合う学びが「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の授業形態の中で行われるように授業を工夫していく。	質問紙「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しましたか」質問において、「週3回以上」の割合が、65%以上を維持。	・ミライシードやKeynote、などタブレットを活用した協働的な学習の充実、情報の整理等を学習に位置付け、思考の可視化、操作化を促す。 ・授業での活用場面が増えるよう教師のスキルアップを目指し、全体研修(年4回)を開催する。 ・デジタル教科書やタブレット(ミライシード)をさらに活用し、より楽しくわかる授業を目指すしていく。		
	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	○全国学力・学習状況調査項目である「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度活用しましたか」の項目で約70%へ向上した。					
研 修 内 容 の 研 究 状 況	校内研究の状況	○ICT機器を活用した協働的な学びの実現に向けての研究をしていることにより、授業で取り入れる場面が多くなった。 ◆情報モラルや使用上のルールなど、状況に応じて指導していく必要がある。	・各教科・領域において、ICT機器を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現するよう取組事例を収集する。 ・各教科・領域を横断的にとらえた授業を研究する。 ・各教科で身につけた資質・能力の活用を研究する。	・「ミライシード」を授業の中に積極的に取り入れることによる児童の肯定的な評価の推移をみる。 ・質問紙調査と学校評価児童アンケートにて肯定的な回答が増加することを目標とする。	・各学級でICT機器を活用した、協働的な学びを目指した事例を収集する。 ・ICT機器を継続的に活用し、思考力・判断力・表現力の向上に取り組む。 ・各教科・領域と関連付けた活動を積極的にとりいれる。 ・情報モラルを学ぶカリキュラムを作成する。		
	校内研修の状況	○特別支援教育に関する研修をはじめ、生活指導、人権の研修を、本校の課題に応じて設定し、実施している。					
家 庭 ・ 携 帯 機 種 間	家庭・地域等の状況	○教育的課題を持っている児童や保護者については、SCへつないだり、担任と連携して指導の方向性を探ったり、個のケースに応じて家庭や関係機関と連携しながら情報を共有した。	家庭・地域との連携を図り、基本的な生活習慣と家庭学習の充実にも努める。	・学校運営協議会、ボランティア講習会を年間複数回開催する。 ・SCによる事例研修会を行う。 ・必要に応じてケース会議を開き共通理解をし、組織的に課題解決に向かって検討する。 ・教育的課題の早期発見のために、毎月生活アンケートもしくはいじめアンケートを行う。	・年3回学校運営協議会の開催、学期ごとのボランティア交流会を通じて情報の共有を行う。 ・スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを活用し、教育相談や保護者向け研修会を実施する。 ・「さんだっ子かきかきプログラム」を活かし、小中一貫・学校間連絡会を開催する。 ・中学校区で学力向上改善プランを交流し、課題の共有化を図る。		
	小・中における教科連携等の状況	○中学校区小中一貫教育推進委員会の部会において情報共有を行い、生徒指導や学力向上における課題を共有できた。 ◆より必要性の高い内容を検討し、情報共有をさらに進めていく。	生徒指導及び学力向上に向けた小中一貫・学校園との連携を推進する。				